大崎が誇る 伝統工芸

しの竹細工、鳴子こけし、鳴子漂器

「道具としての用途が、網目のかたちを決める」

しの竹細工工人・千葉文夫さん

300年の伝統に現代感覚を盛り込んで

岩出山の第4代城主・伊達村秦公が武士の手仕事として奨励したことに始まるしの竹細工。以来300年にわたる伝統を未来に受け継ぐべく、職人として、また指導者として活動しているのが千葉さんだ。「しの竹細工は、生活に密着した台所用具として愛されたものですから、用途に合わせて形や網目が決まるんです。竹の皮だけを使い、その表皮を内側にして編みこんでいくので使う人の手にやさしく、水切れもいいのが特徴。それだけに、手間の多さも相当なもの。かつては2000人以上いた職人も、今では50人ほどになってしまいました。しかし、現代の様式に取り入れやすい商品の開発も進み今では、遠くから技術を学びに来る人も多くなり、また商品のアイデアをいただくことも増えてきました。新しい職人を育てるとともに、〝遺す(のこす)〟のではなく〝発展させる〟伝統のありかたを考えていきたいですね」。

「眼を入れる時には、息をとめて描くんです」

伝統工芸士・菅原和平さん

鳴子こけしの愛らしさに秘めた職人技

江戸時代、お椀やお盆を挽く木地師が、子供のための玩具として作り与えたのが始まりとされているこけし。「こけしの首の部分は胴体に空いた穴よりも大きいんです。ロクロを回しながら、一気にはめ込む。〝キュッキュッ〟と鳴る鳴子こけしの特徴は、この首入れの技術あってのものです」。鳴子伝統こけしの第一人者・菅原さんが、そう言いながら実演してみせてくれる。素材となる「ミズキ」を秋口から伐採し、1年間寝かせて乾燥。ロクロを回しながら削り、描彩、蝋仕上げまで、全く気を抜けない作業の連続だ。「買われた方に、子供を見るような気持ちで大事にしてもらえるように、と思っているんです。だから、顔のいのちである眼を描く時にはいまだに緊張します」。40年間、こけし一筋に歩んできた菅原さんが、心を込めて作っているこけし。かわいらしい姿に秘められた技と心が、長く愛される理由なのだ。

「いつも、静かな気持ちで。ただそれだけです」

鳴子漂器工人・後藤常夫さん

「用の美」を極めた鳴子漂器の真髄

今から約380年前、伊達政宗公の命により始まったと伝えられる鳴子漂器。鳴子ならではの産業として、今も多くの職人が工房を構えている。中でも50以上の塗りの技術を持ち、数々の賞を受賞している後藤さんは、現代の鳴子の塗り師の代表的存在だ。「鳴子漂器は、お椀やお盆といった日常の生活用品。だから、自分の手になじむものを選んで長く使ってほしい。最初から漂だけを塗り重ねる塗り物だから素朴に思えるけれど、その分しっかりした技術と手間が必要。絶対に手抜きをしないで、いつも静かな気持ちで塗りの作業自体と対面する。それが私の信条です」。鳴子漂器協同組合の理事長を務める今となっても、後藤さんの真摯な姿勢は変わらない。時とともに磨かれ、光沢を増してゆく鳴子漂器の中に、工人としての魂を見る思いだ。

鳴子漂器

しっとりとした手触りに幅広い用途

ケヤキやトチなどの木を用い、塗りは木目を生かした木地呂塗やふき漂仕上げ、また独特の墨流しの技法である竜文塗などがある。上品な光沢と堅固さが魅力。

鳴子伝統こけし

華やかさと可憐さに満ちたデザイン

安定感のあるシルエット、首を回すと鳴る「キュッキュッ」という音が特徴。胴に描かれる模様は「重ね菊」といい、横から見た菊の姿を重ねて描くものが代表的。

岩出山しの竹細工

美しい網目と使いやすさで人気

柔軟で弾力がある「しの竹」の特徴を活かし、ざるや籠をはじめとしたさまざまな製品がある。なめらかな表皮を内側に編みこむことで、手なじみも抜群。

手作り体験施設

大崎市が誇る伝統的工芸品の数々。その工芸品を、手作り体験できる施設があります。職人の指導のもと、自分だけのオリジナル作品を作ってみましょう。

MAP P20

■竹工芸館（たけこうげいかん）

竹の美しさ、しなやかさを肌で感じる

東北一の竹細工ギャラリーを目の前に、さまざまな竹細工の手作り体験（300円～・要予約）ができる。指導員が丁寧に教えてくれるので、初めての方でも安心。

■住所／大崎市岩出山字二ノ構115
■電話／0229-73-1850
■営業時間／9:00～17:00　■休／水曜、年末年始
■入館料／無料

MAP P13

■日本こけし館（にほんこけしかん）

世界でたったひとつ、自分だけのこけしを

こけしの絵付け体験（1,050円）が気軽にできる施設。館内では、歴代名工の作品や、約5,000点の東北の伝統こけしなど、多彩な表情のこけしが鑑賞できる。

■住所／大崎市鳴子温泉字尿前74-2　■電話／0229-83-3600
■営業時間／8:30～17:00（12月は9:00～16:00）
■休／1月1日～3月31日
■入館料／大人320円、高校生160円、中学生110円、小学生80円
■HP／http://www.kokesikan.com/

伝統の技とロシア民芸品がコラボレーション!?

鳴子縁起マトリョーシカ

ロシアを代表する民芸品のマトリョーシカ。その白樺の木地に、鳴子こけし工人が絵付けをした「鳴子縁起マトリョーシカ」が誕生。話題を集めている。

■販売店／
桜井こけし店（0229-83-3460）
岡崎斉の店（0229-83-3153）
老舗高亀（0229-83-3431）
■価格／9,500円（5個セット）

イベントにも注目!

第57回全国こけし祭り　第21回鳴子漂器展

東北地方のこけしが勢揃いする祭典。こけしの絵付け体験コーナーや鳴子漂器の展示即売もある。

■会場／鳴子小学校体育館、鳴子温泉街（お祭り広場）
■開催日／9月3日（土）、4日（日）
■時間／鳴子小学校体育館3日10:00～18:00、4日9:00～17:00
　　鳴子温泉街3日18:30～21:30、4日10:00～15:00
■問合せ先／0229-82-2026（全国こけし祭り実行委員会事務局）